

みんなで作る鷹栖市街地未来ビジョン

令和5年3月

 鷹 栖 町

目 次

第1章	はじめに	
1.	基本構想策定までの経緯と目的	1
2.	基本構想の期間	1
3.	基本構想の位置づけ	1
4.	基本構想の対象地域	2
第2章	基本の方針	
1.	基本方針	3
2.	基本方針達成に向けた取り組み	4
3.	鷹栖市街地活性化に向けた体系図	7
第3章	計画概要	
1.	計画概要図	8
第4章	構想の実現に向けて	
1.	実現スキーム	9
【資料集】		
1.	生活利便性におけるアンケート調査	10
2.	鷹栖市街地活性化に関するアンケート調査	12
3.	鷹栖市街地の未来を考えるワークショップ	15

第1章 はじめに

1. 策定までの経緯・目的

町の中心である鷹栖市街地には、役場庁舎やサンホールはびねすなどの公共施設が集積しており、さらに郵便局などの公益施設や飲食店等が立地し、中心市街地を形成しています。

町では、第8次鷹栖町総合振興計画において、分野横断的に取り組む重点施策の一つに「市街地エリアの魅力づくり」を掲げ、賑わいの創出や地域交流の活性化、定住人口を呼び込むことにより、全世代が生きがいをもって安心して暮らせる町を持続的に実現することを目指しています。

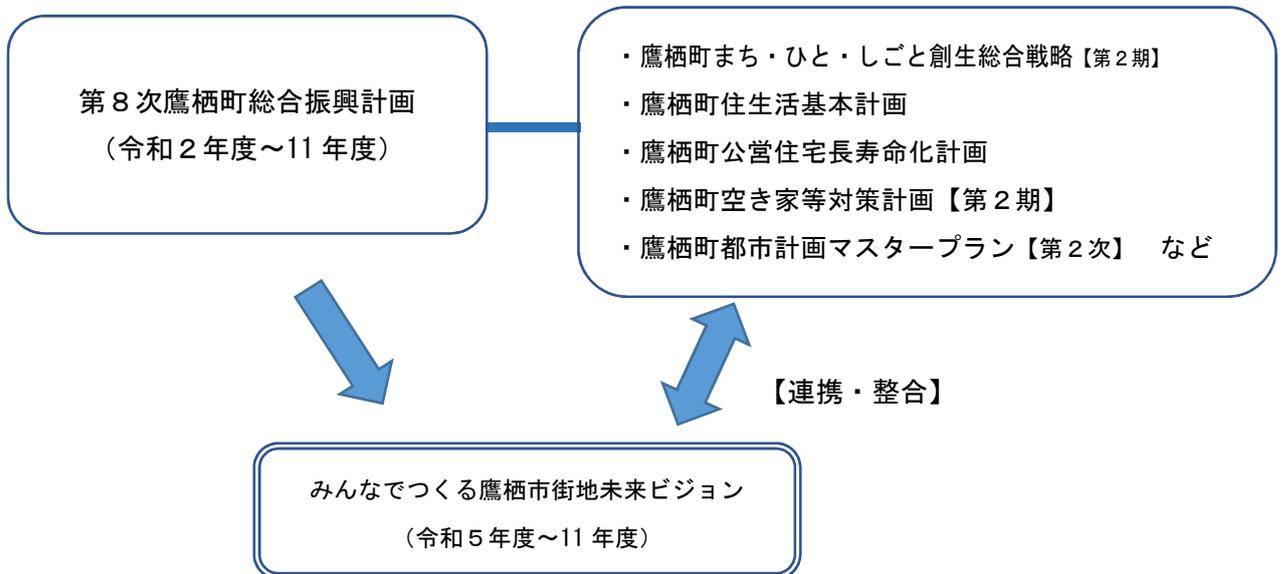
本構想は、まちの魅力を高め、賑わいの創出を図るために目指すべき目標を定め、今後の方針を示すために策定するものです。

2. 計画期間

令和5年度から令和11年度までとし、町の状況にあわせて随時見直しを行います。

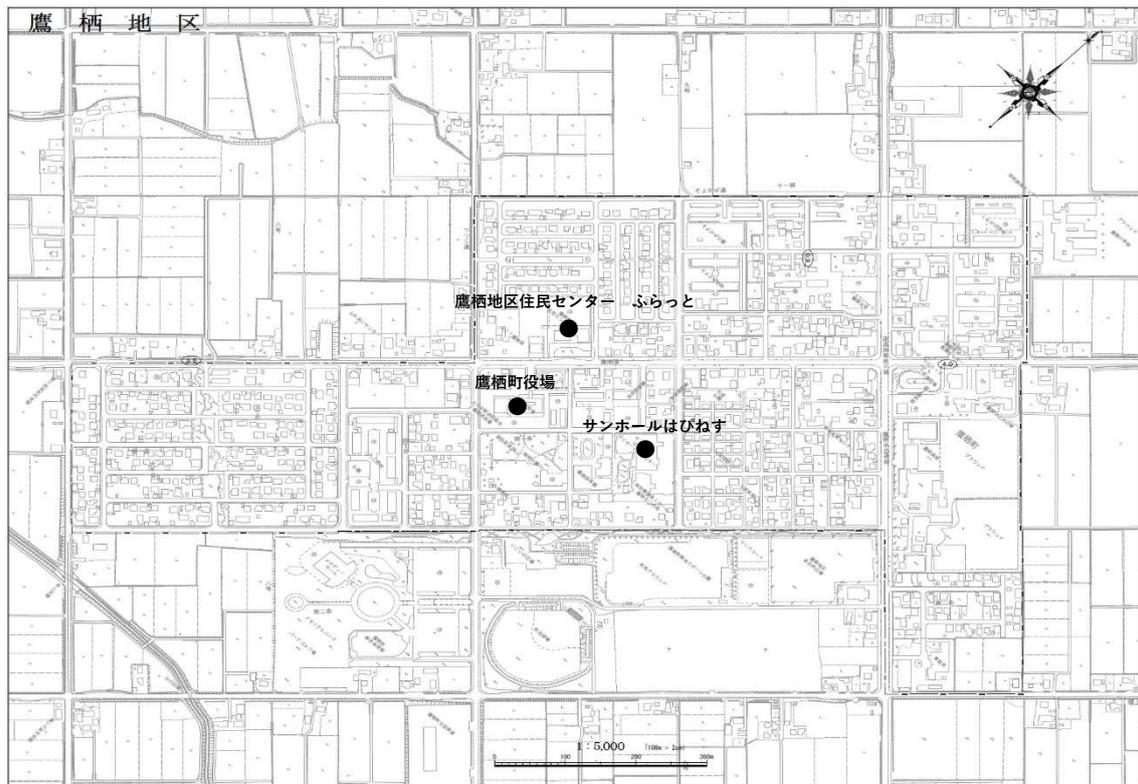
3. 計画の位置付け

本構想は、第8次鷹栖町総合振興計画に即し、その他各分野の計画などと連携・整合を図った構想とします。



4. 構想の対象区域

本構想の対象区域は、鷹栖地区市街化区域及び周辺地域とします。【下図】



第2章 基本的な方針

1. 基本方針

本構想では、第8次総合振興計画におけるまちの将来像、そして「笑顔 幸せ みんなでつくる あったかす」な鷹栖町の実現に向けて、以下のとおり4つの基本方針を定めて施策を推進します。

また、第8次総合振興計画の重点施策である「市街地エリアの魅力づくり」の実現に向けて、鷹栖市街地の賑わいの創出と地域交流の活性化を図り、定住人口を呼び込むことで、子どもから子育て世代、高齢者まで、全世代が生きがいをもって安心して暮らせる町を持続的に実現することを目指します。

●基本方針

みんなでまちの運営をしてよりよいまちへ

まちの居場所づくり・居場所までの道づくり

色々なことにチャレンジしてまちをごちゃまぜに

鷹栖町の強みを活かしたまちづくり

2. 基本方針達成に向けた取り組み

基本方針①

みんなでまちの運営をしてよりよいまちへ

(1) 現状と課題

今後はこれまでにない人口減少、少子高齢化による人口構成の変化が予測され、地域コミュニティや地域経済、公共サービス、町財政へのあり方へ、大きな影響を及ぼすことが見込まれます。鷹栖市街地においても高齢化によるまちづくりの担い手不足やコミュニティの衰退が懸念されます。

(2) 課題解決に向けた方策

■地域運営の基盤づくり

みんなの手による未来づくりを実現するため、既存組織等を軸とした地域運営の基盤づくりの検討を進めるとともに、まちづくりのプレイヤーとなる人材やグループの育成、発掘を行うための取り組みや支援の検討を進めます。

(3) 具体的な取り組み

- ◆「ふらっと」の施設管理、事業運営を担う組織による地域運営の基盤づくり
- ◆まちLabo等によるまちづくり人材・担い手の育成

(4) 関連施設

- ◆鷹栖地区住民センター「ふらっと」



【地域運営モデル地区会議】



【まちLabo】

基本方針②

まちの居場所づくり・居場所までの道づくり

(1) 現状と課題

令和元年に鷹栖地区住民センター「ふらっと」がリニューアルオープンしました。改築により施設の機能は高まりましたが、それらを使う活動や人の流れはまだまだ発展途上の状況です。また、鷹栖市街地には役場庁舎などの公共施設や集約されていることや公園、街路等もあり有効活用できるスペースが多々あります。さらに、人口減少により今後空き家の増加が見込まれます。

(2) 課題解決に向けた方策

■公共施設等の活用

公共施設の空きスペースやまちなかの空き家、空き地、街路、公園などの空間を有効活用し、町民の居場所や拠点づくり、まちなかの賑わいにつながる取り組みを検討します。

(3) 具体的な取り組み

- ◆町民の居場所・拠点づくり
- ◆慶應義塾大学 SFC 研究所と連携した「ふらっと」の活性化
- ◆空き家等の有効活用
- ◆商業事業者と連携したイベント等の開催による賑わいづくり

(4) 関連施設

- ◆鷹栖地区住民センター「ふらっと」
- ◆サンホールはぴねす
- ◆移住体験住宅
- ◆役場庁舎
- ◆プラザ・クロス 10
- ◆空き家 など



【フリースペース「タカノマ」】



【慶應大学との連携による「ふらっと」の活性化】

基本方針③

色々なことにチャレンジしてまちをごちゃまぜに

基本方針④

鷹栖町の強みを活かしたまちづくり

(1) 現状と課題

鷹栖市街地は町の中心市街地として位置づけられているが、人口減少などによるコミュニティの低下や商店街の衰退等により鷹栖市街地の空洞化が進み、都市としての求心力が低下や賑わいの喪失が懸念されている。また、鷹栖市街地内に生鮮食料品や日用品の買い物する場所が少なく、鷹栖町の強みである暮らしやすい町の維持が喫緊の課題となっている。

(2) 課題解決に向けた方策

■中心エリアの整備

拠点整備を起点にまちを活性化していく事業として、住宅、買い物、居場所など市街地に真に必要なとする機能を有した街区の整備を検討します。

(3) 必要な機能

- ◆住宅（高齢者・一般）
- ◆買い物
- ◆チャレンジショップなど
- ◆直売所
- ◆子育て支援

(4) 具体的な取り組み

- ◆商業の拠点の整備
- ◆【仮称】まちなか新団地の整備
- ◆継業に向けた研究・取り組み、後継者の育成・確保

(5) 関連施設

- ◆空き地
- ◆空き家・空きスペース

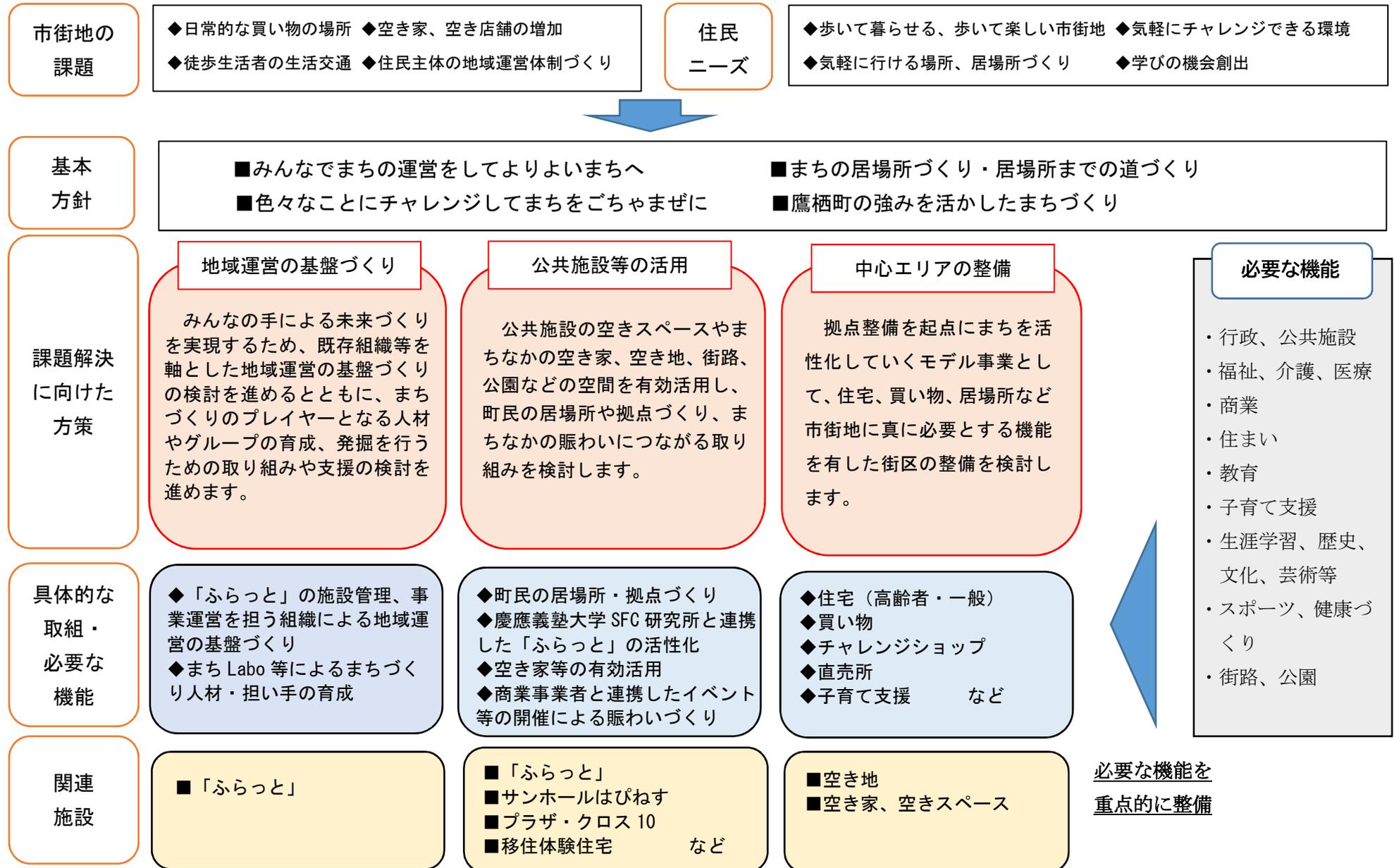


【高齢者向け公営住宅】



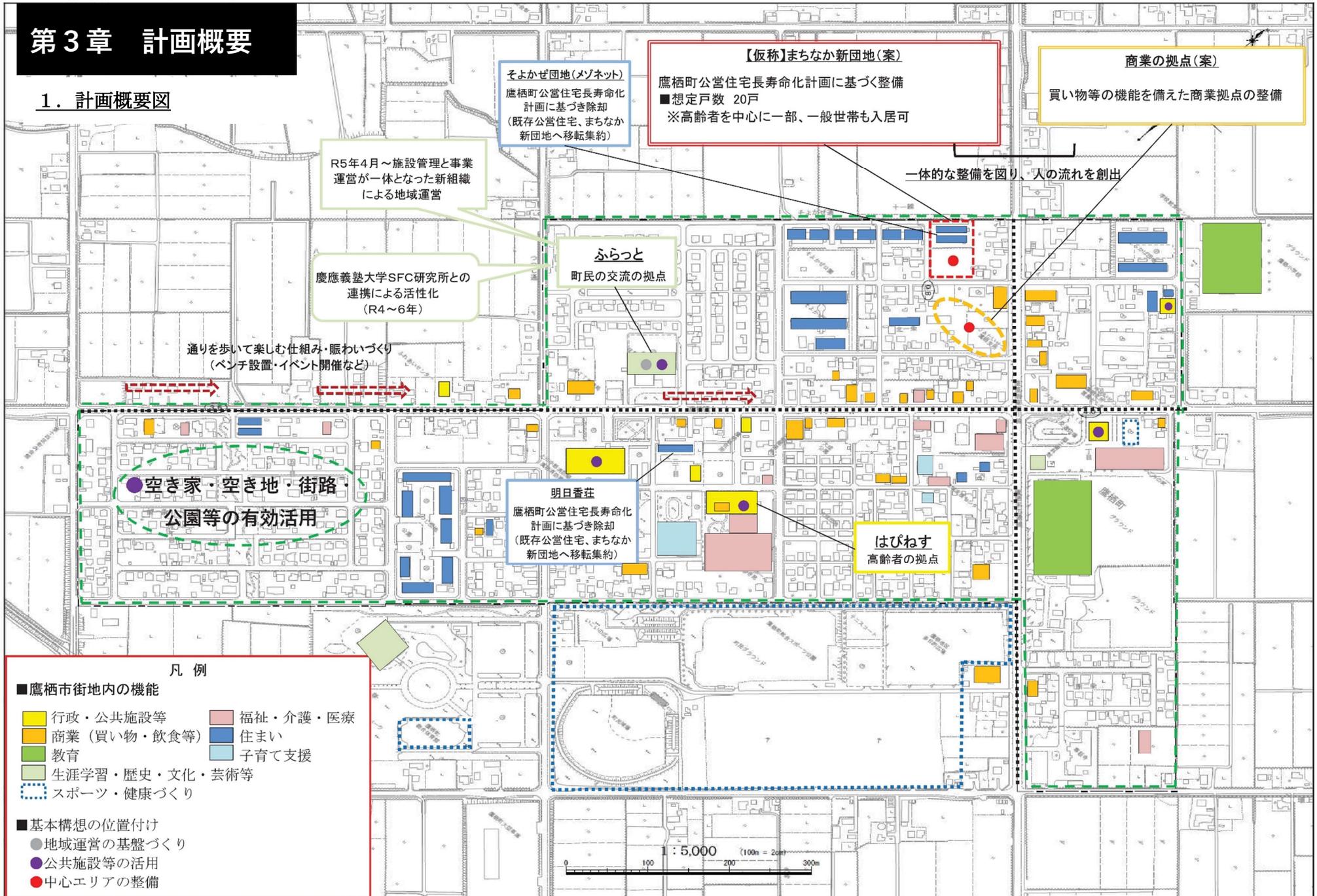
【野菜直売】

3. 鷹栖市街地活性化に向けた体系図



第3章 計画概要

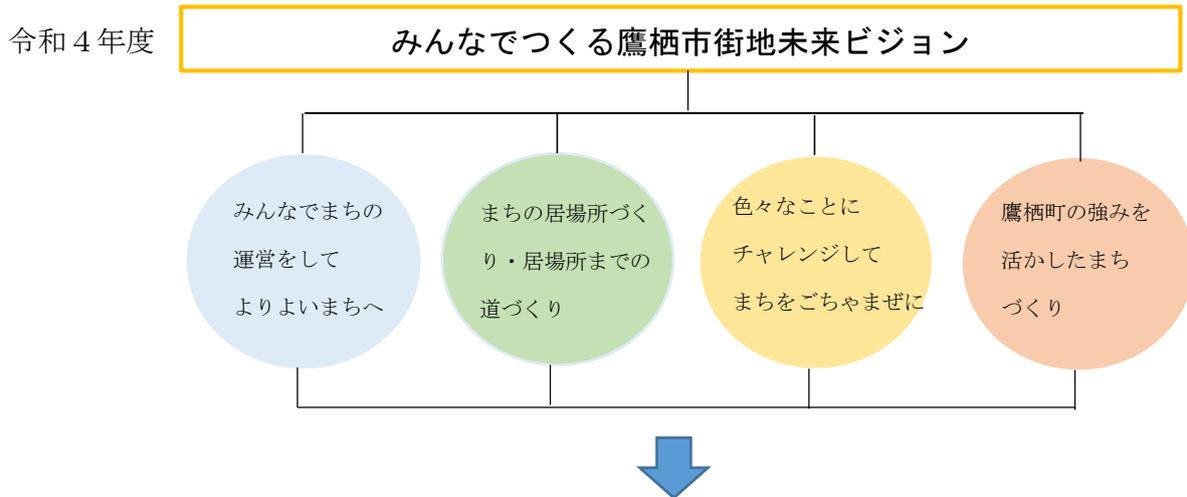
1. 計画概要図



第4章 ビジョンの実現に向けて

1. 実現スキーム

本ビジョンに基づき、令和5年度から11年度にかけて具体的な方策の取り組みを進めていきます。



- 令和5年度～ ●地域運営の基盤づくり
- ・「ふらっと」の施設管理、事業運営を担う組織による地域運営の基盤づくり
 - ・まち Labo 等によるまちづくり人材・担い手の育成 (R3～実施)
- 公共施設等の活用に向けた検討・取り組み開始
- ・町民の居場所、拠点づくり
 - ・慶應義塾大学 SFC 研究所と連携した「ふらっと」の活性化 (R4～実施)
 - ・空き家等の有効活用
 - ・商業事業者と連携したイベント等の開催による賑わいづくり
- 令和6年度～ ●中心エリアの整備
- ・商業の拠点の整備開始
- 令和7年度～ ●中心エリアの整備
- ・【仮称】まちなか新団地の整備開始 ※明日香荘・そよかぜ団地の除却含む
- 令和11年度 ビジョン完

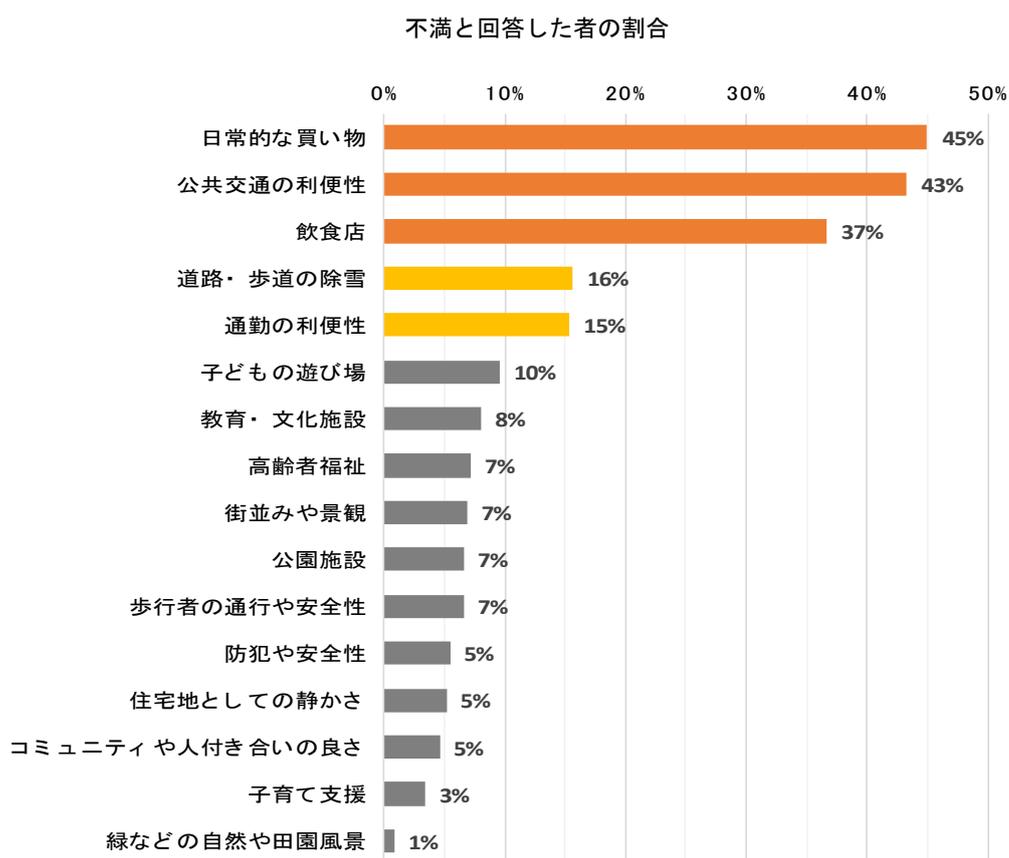
※計画年度は令和4年度時点での予定であり、社会情勢等により変動の可能性あり

資料集

本取り組みの実施にあたり、町民と行政が共通の将来像を掲げて、ともに進めるまちづくりを実現するため、町民の皆さんと創り上げる住民参加の策定プロセスを最重要コンセプトとして取り組みを進めました。各種アンケート調査のほか、町民の皆さんにご協力いただいたワークショップなどを行いました。

1. 生活利便性に関するアンケート調査

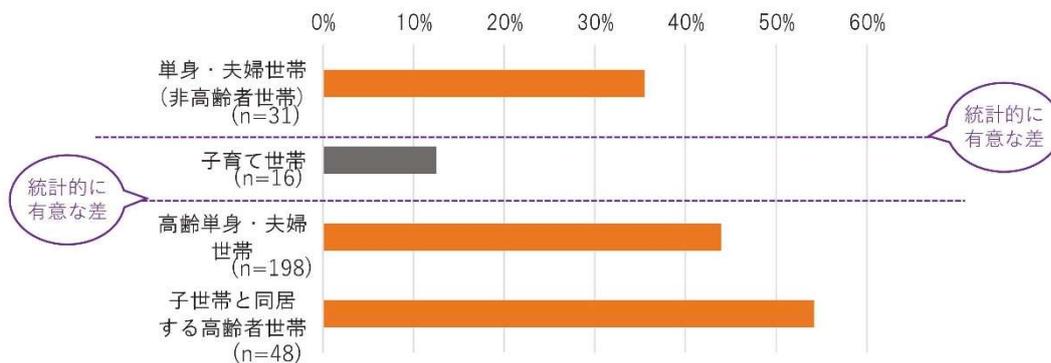
町が住生活基本計画策定時（令和2年度策定）に実施したアンケート調査の結果から、町民が不満に思っていることを整理したところ、「日常的な買い物」「公共交通の利便性」「飲食店」「通勤の利便性」「道路・歩道の除雪」に対して不満をもっている人の割合が高いとわかりました。



住民が不満に思っていること

「日常的な買い物」に対する不満の回答率は、子育て世帯の回答率は低い傾向にあるものの、その他世帯における不満の回答率が高い傾向にあるとわかりました。

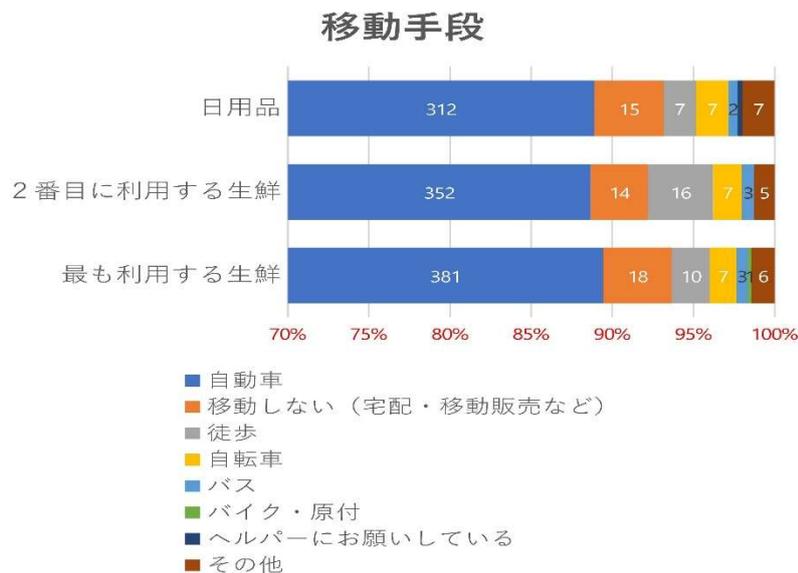
鷹栖町は旭川市に隣接しているため、車があれば不便はありませんが、町内に生鮮食品や日用品の買い物先が少なく、バスの本数も決して多くないため、車がないと不便を感じると予想されます。単身・夫婦世帯（非高齢者世帯）の中には50歳代の回答者が多いことから、子育て世帯以外の世帯は将来的に車を手放した際の状況を想定して、「日常的な買い物」に対する不満や不安を持っていると推察されます。



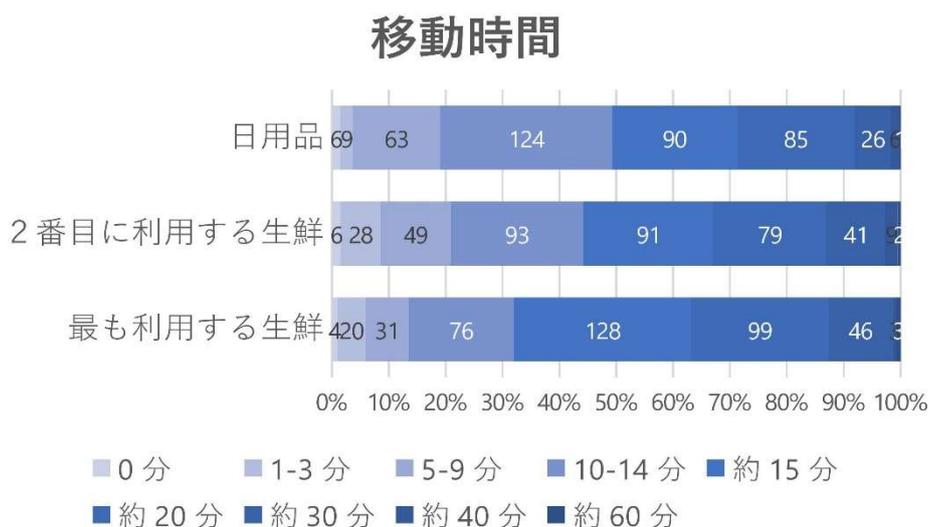
世帯特性ごとの日常的な買い物に対する不満割合

2. 鷹栖市街地活性化に関するアンケート調査

買い物や地域活動に関する実態を調査するため鷹栖市街地活性化に関するアンケート調査を令和4年度に実施しました。無作為に町民1,000人を抽出し（回答率44.6%）移動手段や時間、最もよく利用する店舗、2番目に利用する店舗、日用品を買う店舗の実態について調査しました。



移動手段としては、自動車を利用している人が85%以上となっており、自動車に依存している実態が伺えます。今後、高齢化が進むにつれ自動車を手放し、自動車以外で移動をする人の割合が増えることが予想されます。

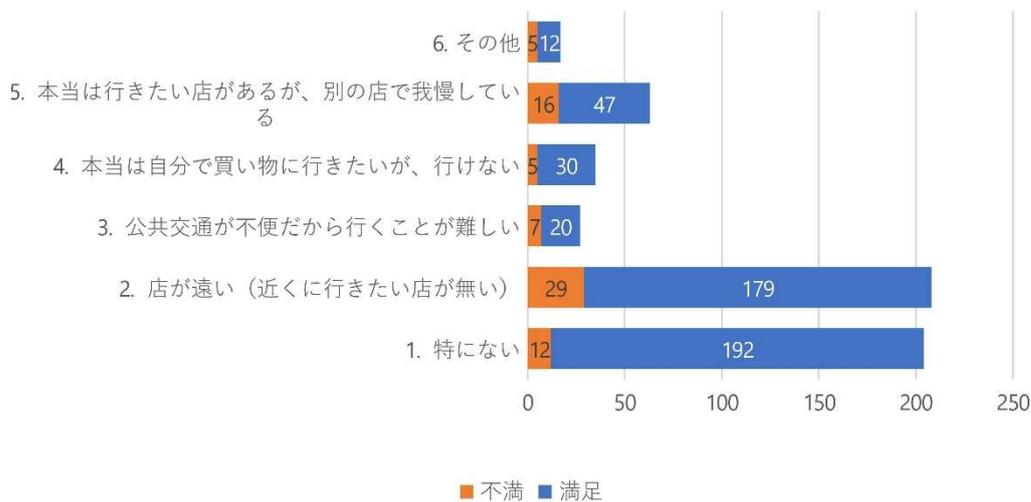


移動時間としては、10～15分程度で行ける店舗に行く人の割合が高く、移動にそこまで時間をかけない実態が伺えます。



最も利用する店舗に行く理由としては「品揃えがいい」に次いで「そこに行けば買い物が全て済む」となっています。2番目に利用する店舗に行く理由としては「品揃えがいい」に次いで「近い」となっています。近場に品揃えのいい店舗が求められていることが伺えます。

総合満足度 × 困っていること (最も利用する生鮮)



買い物に関する困りごととして「店が遠い」「本当は行きたい店があるが別の店で我慢」「公共交通が不便だから行くことが難しい」と回答する人の割合が高いことがわかりました。

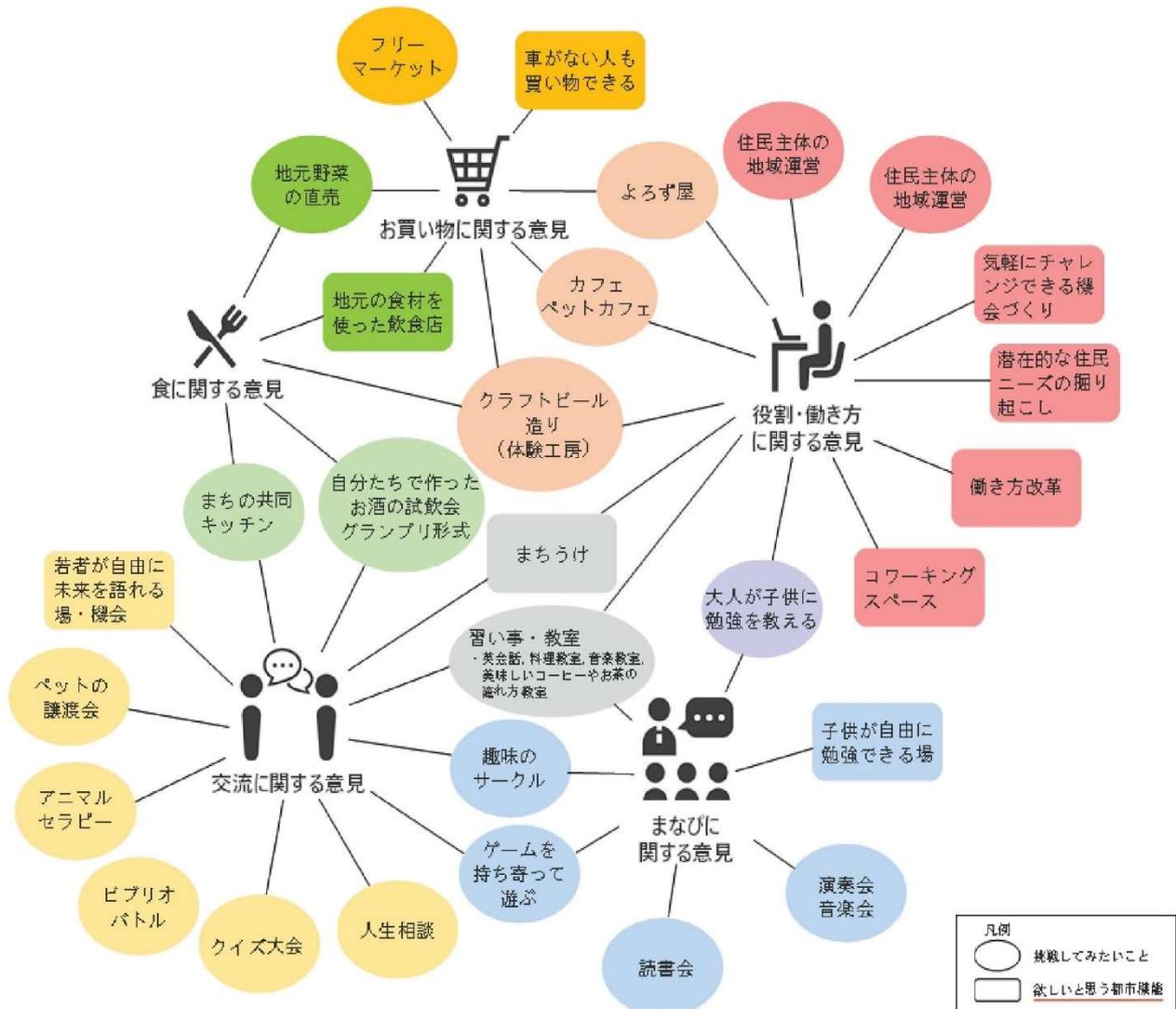
問19	主体的に挑戦してみたい	誰かがやるなら手伝ってみたい	誰かがやるなら利用してみたい	すでに参加している	興味ない	(空白)	総計
①フリーマーケット	18	30	120	3	168	107	446
②買い物代行などの買い物支援	8	71	36	6	211	114	446
③自家製野菜や花の直売	11	35	132	7	160	101	446
④コミュニティレストラン	6	30	121	1	177	111	446
⑤カフェ	13	39	143		139	112	446
⑥クラフトビール工房	9	30	92		201	114	446
⑦趣味で作ったものの展覧会	3	19	105	4	204	111	446
⑧ゲーム大会	4	16	59	4	250	113	446
⑨読書会・ビブリオバトル	4	15	46	1	265	115	446
⑩演奏会・音楽鑑賞会	8	23	146	9	150	110	446
⑪ペットの譲渡会	7	29	60	1	235	114	446
⑫アニマルセラピー	9	27	58		239	113	446
⑬子供に勉強を教える	4	32	63	2	230	115	446
⑭英会話教室（他の言語も）	10	12	96		212	116	446
⑮音楽教室	7	12	78	4	232	113	446
⑯料理教室	13	21	129	3	170	110	446
⑰美味しいコーヒー・お茶の淹れ方講座	15	27	112	1	175	116	446
⑱よろず屋	5	11	62	1	247	120	446
⑲町の業務（除雪・草刈り等）の請負	2	19	63	4	241	117	446

買い物の実態調査と併せて、地域活動への参加意向について調査をしました。主体的に挑戦してみたいこととしては、「フリーマーケット」、「美味しいコーヒー・お茶の淹れ方講座」、「カフェ」などが多くなっています。

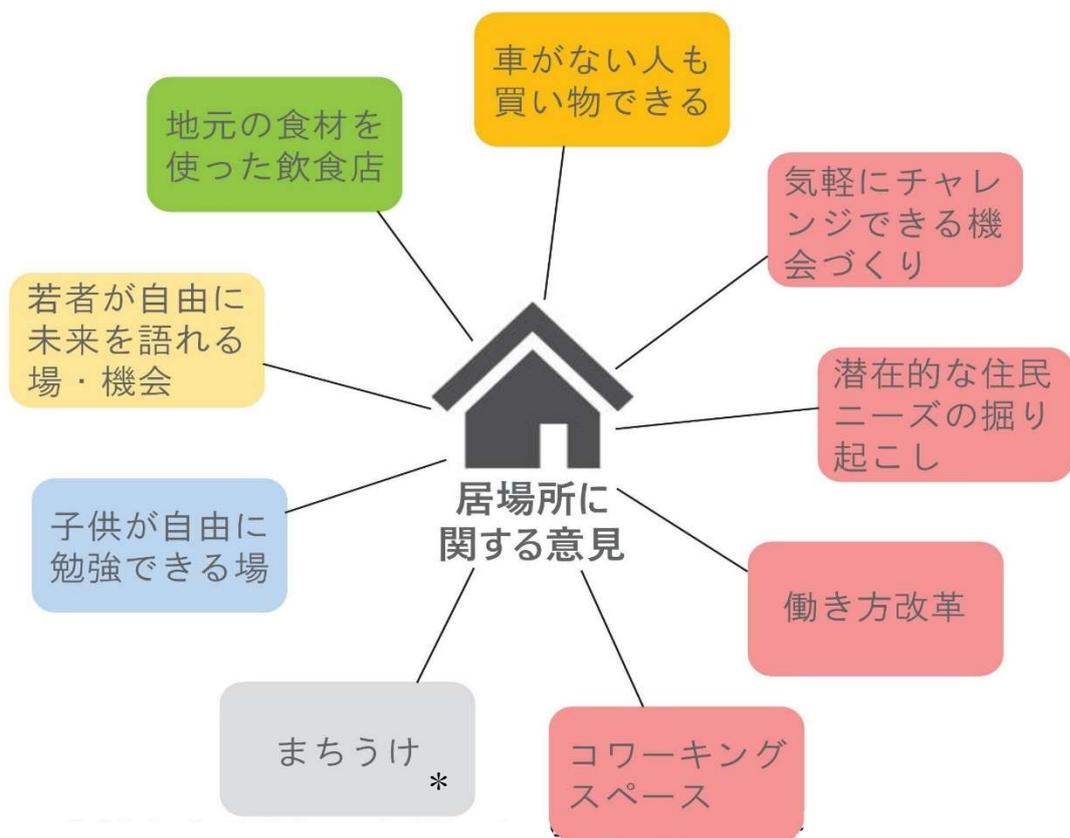
3. 鷹栖市街地の未来を考えるワークショップ

令和2年10月から12月にかけて4回及び令和3年8月に住民・役場職員ワークショップを開催し、鷹栖市街地におけるニーズの把握を行いました。

ワークショップの結果、「交流促進」や「買い物」、「食」などの多様なカテゴリーの意見が出てきました。それらの意見をもとに、以下のように整理しました。



鷹栖市街地に必要な機能の意見



*まちの仕事をまちの人が請け負うという意味の造語

居場所に関する意見

みんなでつくる鷹栖市街地未来ビジョン

令和5年3月発行
鷹栖町総務企画課